

記念日のいわれ No.8

11月2日…フィナードス (FINADOS)

11月2日は「フィナードス (Finados)」という祝日です。「諸死者の日」または「万霊節」と訳す人もいます。この日は日本の「お盆」にあたるもので、この世を去った肉親や友人たちのために墓前に花を捧げ、彼らの魂に安らぎが与えられるようにミサをあげて供養をします。

キリスト教社会においても、死者に対して敬意を表す儀式というものは、様々な形で行われてきました。死者は、朽ちた種が新芽を出すごとく生まれ変わるものとして、植物と一緒に葬ったり、墓地の土を友人や親戚が持ち帰って、それを植物にまいたりするところもあったそうです。また、「死」は人をさらにすばらしい世界へ導くのだという考えから、儀式と祭を同時に行い、夕食をともにするところもあったといえます。

儀式や祭の行い方に違いがあるにせよ、故人に対して敬意を示すことは大切であると考え、10世紀にカトリック教会が11月2日を「故人の日」あるいは「故人追悼の日」として「フィナードス (Finados)」を定め、今日に至っています。ポルトガル人の間では、この日は一切の殺生をしないという習慣があり、それがブラジルでも普及したものであるといわれています。

ちなみに、カトリック教会では11月1日を「万聖節 (Todos os Santos)」といって、この世を去った聖人たちの徳を偲び、感謝を捧げる日として「フィナードス (Finados)」同様、お墓参りをします。この「万聖節 (Todos os Santos)」も以前はブラジルの祝日で「フィナードス (Finados)」とあわせて連休だったそうです。

